

2024年11月15日発行

第  
314  
号

【8面オールカラー】発行部数2,910部

発行元／青森県民主医療機関連合会

所在地／〒030-0803 青森市安方1丁目11-6-1F

TEL. 017 (723) 4076 FAX. 017 (773) 5326

URL <https://aomin.jp/> e-mail [info@aomin.jp](mailto:info@aomin.jp)

## 第16回 共同組織交流集会 in 岡山

9月29日(日)～30日(月)、岡山で開催された第16回共同組織活動交流集会に青森民医連から5名(青森保健生協=組合員2名・職員1名、ファルマ=職員1名、青森民医連=事務局1名)で参加をしてきました。現地開催は6年ぶりであり、全国の医療生協組合員や友の会会員、職員など1700人以上の参加で会場は大変な盛り上がりで熱気に包まれていました。

テーマは「地域の中からつながりを広げ、平和・いのち・人権が大切にされる世界へ～あらたな担い手とともに、誰ひとり取り残さないまちづくりを～」というものです。

1日目の全体会では石川から、能登半島地震と石川県健康友の会連合会の支援活動が報告され、復旧状況と今後について語されました。その場で呼びかけた能登豪雨災害への募金に120万円以上が集まりました。

続いて全国から4つの実践が紹介されました。その中でも群馬中央医

療生協の報告に関心を持ちました。高齢者の通院や買い物の足の確保をするために、行政やバス会社と連携して拡充・改善したことは、素晴らしい

取り組みだと思いました。また、公共のバスを利用し生協の病院や診療所の患者やお見舞いに来る人に、登録制で生協が無料の乗車チケットを発行し、利用状況に応じてバス会社へ料金を支払う事業を2022年10月から開始したことを聞きました。交通弱者にとってより使いやすくす

るために、組合員目線・住民目線に立ち行政へ働きかけて改善したことには感動しました。

2日目の分科会は全国から約250の演題が集まり、7つのテーマに分かれて、分科会と4つの



動く分科会を行いました。私は第2分科会「いのちと人権をまもり、環境・福祉を向上させるとりくみ」へ参加をしました。どの報告も人権を尊重し、いのちを守るために全力を尽くしており、改めて民医連運動の素晴らしさに感銘を受けると同時に確信を持つことができました。

参加した組合員も、班づくりや健康づくりなどこれらの活動に活かせる全国の取り組みを学ぶことができました。今後は学んできたことを伝えていき、共同組織活動を更に広げていきます。

(青森保健生協 組織部)

主任 福士学



# 2024年度上期経営学習会

～釧路協立病院のリポジショニング経験を教訓に健生病院の経営改善を考える～

10月5日(土)浪岡中央公民館で開催され約100名の参加がありました。事前の呼びかけもあり医師や看護師をはじめ多職種から多くの参加がありました。

最初に講師の谷口和基北海道勤医協専務補佐から釧路協立病院の病院再編に取り組んだ教訓について学びました。地方の医療機関は人口減少や高齢化による影響が大きく、診療報酬改定では都市圏の医療機関に比べて対応が難しい側面があり、特に急性期病院は気づかぬうちに地域ニーズと医療活動が乖離している危険性があるとされました。釧路協立病院は経営難に陥り、それまでの急性期医療を中心とした自己完結型の医療活動をSWOT分析等の活用により見直し、地域で果たすべき使命を明確にするとともにコミュニティホスピタルとして総合診療を軸にした転換を図り黒字となっています。何よりも理事長が先頭となり旺盛な職員討議を重ねた結果、全職

員が同じ方向を目指すことができたことが成功要因と述べられていたことが印象的でした。



後半は竹内一仁院長より健生病院の経営改善に向けた対策について報告がありました。最初に現在の経営状況と経営難に陥った要因について触れ、次に竹内院長が考える今後の地域における健生病院のポジショニングについて報告されました。釧路同様に津軽圏域も少子高齢化が進む中で高齢者医療を軸にしながら消化器や在宅診療、健診に重点を置く構想が述べされました。また、経営改善に向けたアクションプランが報告され、具体的で踏み込んだ改善案が示されました。その後に職種別にSGDを実施し、感想交流とともに経営改善に向けて自ら果たすべき役割について意見交換し、大変有意義な学習会となりました。（株式会社ファルマ 代表取締役 崎野修）



## 2024年度 全日本民医連 介護報酬改定対応検討交流会

2024年 介護報酬改定の「対応」と「たたかい」

9月25日(水)、オンラインにて2024年度介護報酬改定対応検討交流集会が開催されました。全国から286名が参加され、全日本民医連事務局次長 松田貴弘氏と林泰則氏より、2024介護報酬改定の対応状況と今度の課題について調査報告と基調提案がありました。

- 
- 
- 

介護事業所の経営は厳しさを増し、事業所の倒産件数は昨年を大きく上回っています。2024年度介護報酬改定で+1・59%のプラス改定となりましたが、満足のいく介護職員の待遇改善や物価高に対応できる事業所運営を図れるレベルではあります。事業所運営を図れるレベルではあります。訪問介護においては基本報酬を引き下げられ、加算の比重は年々高まっています。事業運営の改善を図るためにも、加算の取得は重要となります。

今こそ、私たち民医連が強みとする多職種協働を活かす時です。それぞれの領域から視点を広げ、医療・介護の「人財」を有効的に配置することで、質の向上が図られ、経営の改善にもつながります。

民医連の理念の実現に向けて、現状の政策に「対応」し、制度改善へ利用者の代弁者として声を上げ「たたかう」ことが今、私たちに強く求められています。

（ヘルスサポートやすかた

事務長 石塚理仁）

# 第51回 中央社会保障学校 from 大阪

8月31日（土）～9月1日（日）の2日間、中央社保学校 from 大阪は、台風10号の接近のため完全オンライン開催（オンライン及び集団視聴を含め実参加者数430名）となりました。

第1講座「災害復興政策の根本問題」は、日本における災害の歴史や各地での特徴的な復興実践を通じて、今の「国土強靭化計画」や「コンパクトシティ構想」は都市の論理であること、都市は地方がなければ成り立たないといふことを理解しなくてはならない、「復興の主体はだれか？誰のための政策か？」を常に考え、今の災害復興政策の根本的な政策転換が必要であると訴えました。また、被災地能登の現状報告、災害と自治体労働者の立場から特別報告がありました。

第2講座パネルディスカッション「政治と社会保障」では、3名のそれぞれの研究テーマを報告しその後ディスカッション。「包摂の論理」と「ケア民主主義」が新自由主義の対抗軸であり、そのための政策を浸透させる戦術や対話的重要性が強調されました。

第3講座シンポジウム「若者とともに考える社会保障の未来」では4つの団体から7名が、災害支援活動や若者支援活動、現場で働く労働者の立場から日頃感じている思いや、社会保障に対する思いが素直に語られ、参加者の心を揺さぶる感動のシンポジウムとなりました。

来年の中央社保学校は、佐賀県にて開催の予定です。

（青森民医連 事務局次長 對馬康文）

## PFAS問題を考える



9月14日（土）全日本民医連PFAS問題委員会主催の全日本民医連第1回PFAS問題交流会がオンラインで開催されました。まず、北海道大学大学院保健科学研究院の池田敦子教授より「胎児期におけるPFAS曝露の健康影響、環境と健康に関する北海道スタディの結果から」をテーマに、そして京都大学大学院医学研究科の原田浩二准教授より「PFASの健康影響調査事例とその研究デザイン」をテーマにお話しいただき、最後は各地からの指定報告がありました。

PFAS(有機フッ素化合物)は、泡消火剤に使われていることから、米軍基地や自衛隊基地付近の水道水から検出されています。また、衣服や調理器具など私たちの身近なものにも使用されており、食物やハウスダストなどから体内に入り蓄積されます。「PFAS」については、まだまだ調査や研究が必要ではありますが、低濃度であっても様々な健康影響がある可能性が示されており、私たちはこの問題を真剣に考えていかなければなりません。地域住民の健康を守るために、私たち民医連職員は、学び、考え、実行していくべきだと私は考えます。

“危険であることが実証されるのは、環境が汚染、破壊され、生命、健康が破壊されたときである。危険であることが証明されていないから廃棄物を放出するということは、地域住民を人体実験に供することにほかならない。”（「水俣病」原田正純 岩波新書1972）

（ファルマ弘前薬局 課長補佐 工藤由希子）

## 9・26 総行動 いのちまもる



9月26日（木）東京の日比谷野外音楽堂で行われた「いのちまもる9・26総行動」に参加してきました。青森民医連からは3名の参加でした。が、全国からは2,400人が集まり、オンラインで200ヶ所の視聴があつたと主催者から報告され、コロナ禍以前の規模に戻り会場は満杯でした。各分野のリレートークでは、民医連からは東京民医連より介護現場の現状について訴えをしていました。私は各県と並んで青森県の旗を持つて壇上に上がりました。

集会後は、銀座から東京駅の手前まで街宣パレードを行いました。警察の方も青森で行うよりも多く、信号はパレードの列が進むのに合わせて警察の操作で青に変えられました。沿道の人も静かに見守り、少し違和感のある行儀良さみたいなものを感じました。それでも、数千人の行進とシユプレヒコールは、東京の人々に今の医療・介護・福祉情勢を取り巻く厳しさが伝わったのではないかと思います。

各地の取り組みの一つ一つが、地域の無関心な人々に届き、社会を変える流れを作っていくのだと感じました。

（一般社団法人あおもり健康企画 部長 山崎英二）

## 初期・3年目研修

### 困難事例を通して基本的人権を 守るための取り組みを学ぶ

8月22日（木）・28日（水）、浪岡中央公民館にて

初期・入職3年目研修を開催し、73名が参加しました。研修では「①困難事例を通し、基本的人権を守るために取り組みを学ぶ」「②ブックレット『健康格差の原因』よりSDHについて深める」「③日々の業務や生活の中で人権とのかかわりを見つけ、社会保障との結びつきを学ぶ」ことを獲得目標としました。



2024年 度

## 初期・1年目研修

### 綱領の学習を通して民医連職員として何が大切かを学ぶ

9月19日（木）・9月24日（火）浪岡中央公民館にて、初期・入職1年目研修を開催し、新入職員72名が参加しました。

1年目ということで、まずは『民医連綱領』の学習を通して民医連の歴史や理念を学び、無差別・平等の医療と福祉を目指す民医連職員として大切にすべきものは何かを考え、実践できる職員育成を目指して開催しています。

学習内容は、研修当日までにブックレットの「民医連の綱領と歴史」の第1部（綱領編）を読了しました。研修当日は、民医連の綱領と歴史の講義の後、グループワークにより他法人の職員と交流しながら、民医連職員として何が大切かを学習しました。昨年度から集合研修を再開したこともあり、昨年度は職場でもやり慣れていない感じのグループ



標準としました。  
研修の課題として、事前にブックレット「健康格差の原因」（SDHを知ろう）の読みと、困難事例を一つ選んで原因・解決方法をレポートに記載してもらい、当日SDHについての講義の後、グループワークで困難事例について話し合い、事前レポートと照らし合わせを行う内容でした。

SDHの学習を深めた後にグループワークを行うことで、困難事例についての原因や解決方法を多くの視点で考えることができた研修となりました。グループワークなどで、他事業所の取り組み方や実践などを知る機会となり、今後の業務や民医連らしさの気づきになつたと思います。

（生活介護事業所 花束 管理者 塚本千裕）

### 第46期 全日本民医連 職員育成責任者会議

## 総会方針を実践するため学び成長し合う職場づくり進めよう

9月25日（水）、オンラインにて第46期全日本民医連 職員育成責任者会議が開催され、青森から9人、全国から308人が参加しました。全日本民医連の山本一視副会長から「人権と共同のいとなみを大切にする組織文化のなかで発達する私たち」をテーマに講演があり、8県連から実践報告がありました。

学習講演では、①「高い倫理観と変革の視点」と育成指針、人権と共同のいとなみを位置付ける意味を考える、②どのように私たちはその成長を組織するのか、という2つの柱でお話がありました。

キーワードである「人権・共同のいとなみ」とは、基本的

が育成に関わる核心のキーワードであり、学び続ける重要性を呼びかけていました。

活動交流では人権や多様性、ジェンダー委員会、日常の中の民医連綱領の取り組みなど8県連より報告がありました。LGBTQ学習会にYoutuberを呼びトークセッションを行った報告や、県議会傍聴の取り組みなど多彩な報告がありました。民医連の日常の医療介護現場には職員成長の資源があふれています。民医連運動は決して楽な道のりではありませんが、実践を通してともに成長し、学び続けていきましょう。



全体講演講師の  
山本一視全日本民医連副会長

（ショートステイ虹の郷 所長 吉田浩徳）



人権を支える関係性であり、民医連のたたかいの歴史のど真ん中に「人権と共同のいとなみ」がある。大切なことを貫くためには学びが必要。命や個人の尊厳に軸足を置くと、利益優先の社会に対峙することになるが、学ばなければ流されてしまう。育成指針に人権と共同のいとなみを位置付ける意味

2024年度

# 県連薬剤師二年目研修

8月24日(土)、浪岡中央公民館にて、薬剤師二年目研修を開催しました。3名の薬剤師を対象とし、「論文の読み方について」の講義と、外用薬の基礎学習を行いました。



「論文の読み方について」では、まず論文を読むにあたっての基礎的な知識、各ポイントを学習し、各自で論文を評価する必要性について理解を深めました。次に、その論文をもとに症例の患者さんへの返答を検討するという2段階形式で講義が進んでいきました。

外用薬の基礎学習では、ステロイド剤や指導方法の基礎知識を学び、実際の基剤に触れたり、ステロイド剤の混合による強さの比較などをクイズ形式で行い理解が深まりました。

1年間薬剤師として勤めた中で、普段の業務と関連付けながら新しい知識を身につけ、民医連に勤める医療従事者として意識していくことを確認できました。  
(青森民医連 端村由貴人)

2024年度

# 県連薬剤師一年目研修

9月28日(土)、健生病院会議室にて、2024年度県連一年目薬剤師研修を開催しました。今年入職した1名の薬剤師を対象に、「民医連の薬剤師として薬剤とどう向き合うか」をタイトルに講義、その後健生病院の薬局見学を行っていただきました。



研修前にアイスブレイクの時間を設け、自己紹介、趣味などについて情報交換を行いました。講義では、民医連薬剤師は単に薬を調剤して患者さんへお渡しするだけでなく、はたして薬が安全であるかを常に考える必要があることを学びました。また、患者さんからの副作用の聞き取りや論文を読むなどし、情報をアップデートしていく必要があります。過去の薬害、製薬会社の不祥事例を学び、薬は常にリスクを伴うことを念頭に、日々の業務を行ってほしいことがメッセージとして送られました。

病院見学では、事前に抗がん剤調整、産褥指導について知りたいと要望があったため、安全キャビネット見学、産褥指導時にお渡しする資料を交えながら説明。また、病棟での薬剤管理方法も見学しました。



2時間という限られた時間の中で、民医連薬剤師としての役割を理解し、患者さんのためにできることを自分なりに考える良い機会になったことだと思います。研修の内容をうけ、今後の業務に励んでいってもらえることを大いに期待します。

(健生病院 薬局 主任補佐 赤平祐一)

2024  
年度

# トップ管理者研修



退職には様々なケースがあるため、答えは見つけられなかつたかもしれません。それでもがき苦しんでいた仲間を確認できたのは大きいと感じる研修会でした。これからも、県連結集の視点と繋がりを活かして支え合いの薬剤師育成が出来たらと考えています。

(あおもり健康企画 副理事長 鮎甚路子)

第45回

## 民医連の医療と研修を考える医学生のつどい

いのちの平等～過去から織りなす私たちの社会～

10月5日（土）～6日（日）、東京・有明TFTビルで第45回民医連の医療と研修を考える医学生のつどい（プレつどい）が開催され、全国から174名、青森からは医師・医学生ら16名が参加しました。



医学生のつどい講演中

5日、東京民医連・立川相互病院呼吸器内科・奥野衆史医師の講演は、東日本大震災被災地支援から始まり、アスベスト肺炎への関わり等を、SDH・LGBTQの観点から日本国憲法を大事にし、多くの経験と出会いを経ている事を話されました。班ごとで議論の後、反核医師生部会、医学生自治会、健生病院・宮澤千裕医師らの投票プロジェクトが紹介され、夕食を経た学年別テーマ別交流会が行われました。

6日、大阪民医連・東大阪生協病院院長・神経内科チームミナマタ・橘田亜由美医師の講演は、「水俣病近畿訴訟128人全員の所見書を裁判所に提出・全面勝訴の

一助になった事」「シュンムン（胸悶）など多重な症状を呈す、旧日本軍遺棄毒ガス後遺症支援医療団の一員で中国チチハル市訪問」「公害・人権侵害を、事実を積み上げ論文発表し、裁判で負け続けても原告の元気さに励まされ、不平等に立ち向かう事」を力強く話されました。

閉会挨拶は、つどい事務局の健生病院・松本拓真医師が「私たちの考えは、今は少数派だがいつか多数派に。正しいことは皆で決めていく。」と締められました。

参加した学生からは「事前学習したこともあり大変意義深かった。」等の感想が出されました。

(青森民医連 菊池力)

## 2024薬学生のつどいin福島



9月14日（土）～15日（日）北海道・東北地協薬学生のつどいが福島県にて行われ、薬学生・職員含め計28名が参加しました。

東日本大震災から13年経った今、当時の状況と福島の現状を改めて学

ぶことで、被災者の立場になってこれからの課題や問題を考えさせられた2日間でした。

現在も帰還困難区域である津島地区にてフィールドワークを行い、震災当時津島地区で暮らしていた方のお話を聞いたり自宅を見学させていただきました、原発事故直後は放射線の危険性も未知数で、国からの避難指示もなかった為に自分の子供を被ばくさせてしまった、涙ながらに語られました。

講演会では様々な立場からの震災当時の状況、原発事

故の悲惨さをお話して頂きました。

特に農民の方の講演では、帰還困難区域に取り残された家畜の死骸など、原発事故の恐ろしさを物語るショッキングな画像が印象に残りました。

グループディスカッションでは原発廃止のために「自分達に何ができるか」、「今回学んだことをより多くの人に知ってもらいたい」など学生からたくさんの意見が飛び交いました。

学生、職員ともに13年で薄れかけていた震災、原発の恐ろしさを再認識できたつどいとなりました。(あおもり協立病院 薬局 渋田遙平)



ティラノサウルスも署名訴え

医療・介護・福祉などの社会保障制度の抑制政策の誤りは、コロナ禍の教訓を踏まえれば、平時から一定の余力が必要なことはあきらかです。防衛費の増額ではなく、経済的理由で医療や介護を受けることができない人びとが、無差別・平等による公的制度の拡充と、国民にとって安全・安心の医療・介護を提供するための診療報酬・介護報酬の大幅な引き上げを求める運動を皆さんとともに進めていきたいと思います。

(青森民医連 奥崎大)



## 2024秋の看護・介護ウエーブ

～安全で安心できる医療・介護・福祉の確立を～

10月5日（土）2024年秋

の看護・介護ウエーブを開催しました。

青森市アウガ前歩道を中心

に街宣、署名行動を60名の

参加で行いました。

当日は晴天に恵まれ、私たちの運動に足

を止めて訴えを聴いてくれる方

があちらこちらで見られ、署名

には72筆のご賛同を頂きました。

厚労省の新たな推計で、全国

で2026年度に必要な介護職員数は約240万人と見込まれ、さらに2040年度は27

2万人となり、57万人不足する

とされています。理由の一つと

して私たち介護職の給料は他業

種と比べかなり低く、やむなく

生活のため離職するなどで仲間が減り、若い世代

には選ばれない仕事となっています。そのよ

うな中でも、今も現場で頑張っている介護職は、

介護という人の人生に触れ、望む生き方を支える

仕事にやりがいを持つて働いています。

医療・介護・福祉

などの社会保障制度の抑

制の誤りは、コロナ禍の教訓を踏まえれば、平時

から一定の余力が必要なことはあきらかです。防

衛費の増額ではなく、経済的理由で医療や介護を

受けけることができない人びとが、無差別・平等に

医療や介護を受けられるための必要充足の原則に

よる公的制度の拡充と、国民にとって安全・安心

の医療・介護を提供するた

めの診療報酬・介護報酬の

大幅な引き上げを求める運

動を皆さんとともに進めて

いきたいと思います。

第25回  
「問われているのは  
人間の尊厳」

8月23日（金）、日比谷図書文化館で「第25回薬害根絶デー」が開催され、120名以上の現地参加と、全国から多数の方がオンライン視聴しました。

集会では「HPVワクチン薬害訴訟原告」や、「新型コロナワクチン後遺症の会」の方がワクチン接種後の後遺症によって制限された人生になってしまったことを涙ながらに訴えていました。厚労省はワクチンによる想定外の副反応であることを認めず積極的勧奨をしていますが、本経験から集まつた薬剤師に対し、より厳正な態度で薬剤に向き合うよう求めています。これは医療従事者に対する叱咤激励であり、我々はしっかりと受け止めます。これには医療に活かしていく必要があります。



専務  
成田卓弥  
(一般社団法人あおもり健康企画)

## 介護事業所乗り入れ点検

9月30日（月）～10月21日（月）にかけて、県連内5か所にわたり介護事業所乗り入れ点検を実施いたしました。私は10月9日（水）、看護小規模多機能型居宅介護事業所ひまわりの乗り入れ点検を行いました。点検し感じたことは、利用者様達は大きな風船でバーレクリエーションをしており、通いのレクリエーションが充実している様子でした。すでにノーリフティングケアに取り組んでおり、職員の腰痛予防や利用者様の二次障害に努めています。職員の教育も行っています。また、運営推進委員会参加の町内会長さん



にお願いし、回覧板を活用してチラシ広告を回覧し、宣伝活動しているのも良いと思いました。自職場にも取り入れたい点がたくさん見受けられ、介護事業活動の質の向上に引き続き取り組んでいきたいと強く感じることができました。

（ナーシングホームたまち主任 石郷岡リカ）

## 医療安全委員会による医療安全乗り入れ点検



10月8日（火）に医療安全管理者（看護師）2名、薬剤師2名、県連事務局1名の計5名により「あけぼの薬局妙見店」の医療安全乗り入れ点検を実施しました。

葛西薬局長に各種マニュアルの説明、調剤室などの案内をしていただき、患者誤認防止対策や薬剤誤認対策、薬剤アレルギー情報の共有方法など様々な安全対策について確認することができました。

医療安全委員会では「①医療安全に対する各事業所の取り組み状況や、体制整備の実態を把握し、県連の安全委員会で共有する。②調査内容を県連内事業所へフィードバックし、医療安全マニュアル、指針等の整備へつなげる。③乗り入れ点検を実施する側・受ける側相互の安全意識を高め日常活動に活かす。」を目的に行っています。調剤薬局の他病院、診療所、介護施設なども点検しています。今後も乗り入れ点検を行い各事業所の安全の質向上に繋げていきたいと思います。

（健生病院 医療安全管理室 管理看護長 木村祥子）

## 県連事務局人事往来



### 『いつでも元気別冊・レッツ体操パンフレット』ができました

メディカルフィットネスマイル（福岡民医連）が執筆した「レッツ体操」11回分と、各ページに医療福祉生協あおさかの「けんこうカルタ」が載っています。班会やサークルでの健康づくりにぜひご活用ください。



11月1日付で研修医室に所属となりました。これまでの業務とは全く異なるため、わからないことばかりですが、先輩方に習いながら少しでも早く業務に慣れて貢献できるよう努めてまいります。よろしくお願いいたします。

着任 おくやま ちひろ  
奥山 千尋

（津軽保健生協⇒弘前事務所）11/1付



帰任 いすみ や か  
泉谷はる香（弘前事務所⇒津軽保健生協）10/1付

# うちの メコっこ

vol.  
81

我が家の可愛いメメ(キジトラ・メス6才)です。ある日、庭に迷いこんで鳴いているメメを娘が発見しました。絶対面倒見ると言う約束で飼うことになりました(最初だけで…そんな娘は今年の4月から関東の専門学校に行ってしまい 笑笑)

メメはガリガリに痩せこけて、目やにで目がくっついて開かない状態だったので動物病院に連れて行き、毎日引っ搔かれながらも目薬をやったり…、餌をあげ…、トイレの掃除…、メメが一番の生活になりました。

大きくなるにつれヤンチャで障子を破ったり…、カーテンに攀じ登り引き裂いてしまったり…、仏壇の花を食べたり…、仏壇の上・神棚に上がったりしても可愛いので許してしまうんです。

今は私の一番の癒しのメメです。これからも元気でいてね。

(津軽医院 通所リハビリテーション 工藤和子)



name メメ  
キジトラ メス

age 6歳

## 私の三つ星★★★



オススメ

## 新時代 青森クロスター A-BAY 店

青森市長島のクロスターA-BAYの中にある「新時代」という居酒屋をご紹介します。この店は2024年

7月17日にオープンしたばかりで、鶏皮を揚げた伝串(1本50円)が有名です。伝串は甘めのタレがかっておりご飯が何杯でも進むおいしさで、総売上本数2億本を突破したのも頷ける味となっています。また、メニューに伝串ピラミッドというものがあり、見た時は圧巻の一言に尽きます。

そしてもう一つ、お酒好きの方に朗報なのですがビールが1杯190円と安く、ハイボールやレモンサワーなどはメガジョッキ(1L)に変更することが可能で、金額2倍・量3倍になる為かなりお得な価格で飲む事ができます。メニューは全体的にお手頃価格で設定されており、財布にとてもやさしいです。



店内は他のお客様の笑い声に包まれて明るい雰囲気となっています。私自身、何度か利用させていただいているのですが、雰囲気に飲まれてついついお酒は飲み過ぎ、ご飯は食べ過ぎてしまいました。居心地がとてもいいお店なので、ぜひともご利用してみて下さい。

(あおもり協立病院

リハビリテーション科 四戸健太)

## 11月 第57期第7回理事会報告

- >> 1. 会長あいさつ
- >> 2. 全日本民医連理事会報告関係
- >> 3. 決裁・承認事項
  - (1) 奨学生関係
  - (2) 県連・地協・全日本関係
  - ①奨学基金拠出金(2024年11月～2025年3月分)徴収停止
  - (3) 各種委員会から
- >> 4. 協議事項
  - (1) 2024年度上半期 各法人経営状況
  - (2) 「オール地域」での「たたかい」を前進するための方針の具体化
  - (3) 青森民医連 第57期委員会体制の到達
- >> 5. 医師・医学生関連
- >> 6. 報告事項
  - (1) 全日本民医連通達・声明、地協関係
  - (2) 地協
  - (3) 県連・共闘関係
- >> 7. 各法人・事業所から